



## (6)大規模コンベンション開催上位・九州主要 20 施設の収支状況

対象 23 施設のうち、有効回答 20 施設について分析

施設	① 収入-支出 (百万円)	② 指定 管理料 (百万円)	③ 所有者へ の納付金 (百万円)	①-②+③ (百万円)	施設概要				稼働率		
					ホール (固定席)	ホール (平土間)	会議 室数	展示場	ホール (平土間)	会議室	展示場
参考 (仮)長崎MICEセンター	-	-	-	-	なし	5,100m <sup>2</sup>	20室	-	-	-	-
1 施設A(中部地方)	0.0	895.8	-	▲895.8	4,600席 879席	1,488m <sup>2</sup>	19室	-	81.0%	89.0%	-
2 施設B(中部地方)	1.6	861.2	-	▲859.7	2,336席 1,030席	-	23室	3,500m <sup>2</sup>	-	80%	60%
3 ひめぎんホール	0.0	180.6	-	▲180.6	3,000席 1,000席	1,326m <sup>2</sup>	15室	-	38.9%	算出して いない	-
4 施設C(九州地方)	83.7	263.5	-	▲179.8	534席	530m <sup>2</sup>	6室	15,141m <sup>2</sup>	34.0%	40.0%	73.2%
5 施設D(九州地方)	8.7	97.6	-	▲88.9	1,106席	896m <sup>2</sup>	8室	-	55.0%	56.0%	-
6 施設E(中国地方)	16.9	91.0	-	▲74.1	1,504席	-	3室	-	-	72.9%	-
7 仙台国際センター	274.9	315.3	-	▲40.4	1,000席	755m <sup>2</sup>	12室	-	69.0%	57.5%	-
8 施設F(中部地方)	79.3	93.0	30.5	16.8	なし	1,133m <sup>2</sup>	11室	7,800m <sup>2</sup>	76.6%	58.3%	51.5%
9 施設G(中部地方)	▲13.2	-	74.1	60.9	3012席	2,375m <sup>2</sup>	22室	1,920m <sup>2</sup>	77.6%	65.0%	74.0%
10 札幌コンベンションセンター	19.3	-	75.0	94.3	なし	3,380m <sup>2</sup>	15室	-	55~84%	76%	-
11 国立京都国際会館	99.0	-	-	99.0	1,840席	2,845m <sup>2</sup>	32室	3,000m <sup>2</sup>	52.5%	45.9%	43.6%
12 施設H(中国地方)	113.9	-	28.6	142.5	なし	1,923m <sup>2</sup>	10室	-	74.7%	69.7%	-
13 施設I(近畿地方)	124.2	-	182.5	306.7	692席	272m <sup>2</sup>	22室	13,600m <sup>2</sup>	50.2%	43.3%	43.7%
14 沖縄コンベンションセンター	387.5	67.8	-	319.7	1709席	-	12室	2,500m <sup>2</sup>	-	48.9%	49.2%
15 大宮ソニックシティ	46.5	-	317.8	364.3	2,505席 496席	-	28室	1,478m <sup>2</sup>	-	86.6%	61.2%
16 グランキューブ大阪	203.1	-	212.1	415.2	2,754席	2,600m <sup>2</sup>	45室	-	89.6%	84.4%	-
17 施設J(関東地方)	429.8	-	-	429.8	5,002席	1,350m <sup>2</sup>	41室	20,000m <sup>2</sup>	65.0%	67.0%	72.0%
18 福岡コンベンションセンター(3施設)	593.9	152.3	-	441.6	1,000席	1,320m <sup>2</sup>	22室	13,052m <sup>2</sup>	79.8%	67.9%	83~ 86.9%
19 インテックス大阪	1,216.0	-	-	1,216.0	なし	534m <sup>2</sup>	20室	70,078m <sup>2</sup>	算出して いない	算出して いない	算出して いない
20 施設K(関東地方)	499.8	-	1,185.8	1,685.6	5,012席 1,502席	2,625m <sup>2</sup>	21室	5,000m <sup>2</sup>	68.6%	79.9%	85.3%

### 黒字施設の特徴

- ▶ 比較的多くの会議室を有する。
- ▶ 近隣にグレードの高い宿泊施設が比較的存在
- ▶ 駅や空港からのアクセスが比較的良好
- ▶ 都市の魅力度が比較的高い

### 赤字施設の特徴

- ▶ 固定席の大ホールや国際会議場は、舞台装置や設備など特殊性があるため、大きなランニングコストが必要となっている。
- ▶ 会議室が少なく、分科会を伴うコンベンションに対応できないことから、コンベンションの誘致力が損なわれている。
- ▶ 近隣にシティホテル級の宿泊施設がないことや、駅や空港からのアクセスがよくないことが、利便性を低下させており、コンベンションの誘致力が損なわれている。

### 結果の整理

- ◎ 平土間の大空間と会議室を主体とした施設は、いずれも黒字運営。
- ◎ 固定席を備えた大ホールや同時通訳設備を備えた国際会議場を有する施設は、ランニングコストの面から貸館収入のみでは赤字運営になることが多いが、首都圏や大都市に限っては黒字運営を達成している。
- ◎ 多くの会議室を有することは、多数の分科会を伴うコンベンションにも一か所対応できるため、コンベンションの大きな誘致力となる。
- ◎ 近隣にグレードの高い宿泊施設があること、駅や空港からのアクセスがよいことなどは、コンベンションの主催者及び参加者の利便性を向上させるため、誘致力の差別化を図ることができる。
- ◎ アフターコンベンションを考慮すると、都市魅力度の高さは重要であり、これにより誘致力を高めることが可能。

## (7)年間想定利用者の規模別件数

長崎MICEセンター(仮称)では年間約 59 万人の利用者数(延べ数)が見込まれる。  
また、年間の開催件数を想定すると、下記の表のとおり学会・大会等が 16 万人・271 件、一般会議等が 13 万人・542 件と想定され、展示・興業イベント等を含めると計 869 件となる。また 1,000 人以上の学会・大会等は計 17 件、そのうち 3,000 人以上の規模は 3 件程度を見込んでいる。

区分	(参考)平成21年度~ 平成23年度開催MICE	長崎MICEセンター(仮称)		
		学会・大会等	一般会議等	展示・興行等
参加人員(延数)	59万人	16万人	13万人	30万人
開催 件数	0~500人規模	237	542	56
	500~1,000人規模	17		
	1,000~3,000人規模	14		
	3,000人以上	3		
	計	271		
		869		